

## 1. 社会・治安情勢

(1) ホンジュラス国家警察がホームページ上に掲載している統計（SEPOL）によれば、今年上半期の殺人事件は2,942人（昨年同月比635人減少）となっているものの、サン・ペドロ・スーラ市、テグシガルパ市、ラ・セイバ市、エル・プログレソ市などの都市部を中心として連日多数の殺人事件が発生していることから、体感治安の改善には至っておらず、依然として厳しい治安情勢が続いている。

(2) 連日、新聞では各種オペレーションの成果として、薬物関連事件、殺人事件、恐喝事件などの被疑者検挙について報じているが、捜査能力の低さから大半の凶悪犯罪については解決しておらず、殺人事件についてもほとんどが未解決に終わっている。

(3) 5月8日、ホンジュラス政府は、同政府による初めての自国民引き渡しの例として、米国の要請に基づき、米国において麻薬密売等の罪に問われていたカルロス・アルノルド・ロボ（当地域におけるコカイン密輸・密売に関わる主要人物の一人、通称「エル・ネグロ」）の引き渡しを行ったが、その後サン・ペドロ・スーラ市内において、エル・ネグロの後継争いや金品を巡る抗争と見られる殺戮事件が相次いで発生し、巻き添いとなった一般人も含め多数の死者を出している。

## 2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) タクシー、バスなどの交通機関関係者に対する犯罪（運転手・経営者に対する殺人事件、バスに対する放火事件など）が後を絶たず、その原因の大半がみかじめ料を巡るトラブルと考えられ、乗客が巻き添いとなる事件も多数発生している。また、交通機関車内（特に乗り合いのタクシーやバス）での強盗事件は相変わらず多発しており、同種事件は邦人も被害者となり得ることから、十分な注意が必要である。

(2) 依然として、携帯電話を狙った強盗事件も発生していることから、公共の場所において携帯電話を利用する際は特に注意が必要である。

(3) 犯罪組織間の抗争で一般人が巻き込まれる事件が発生しており、その場合、犯人はAK-47などのアサルトライフル（大変威力が強く、数秒の間に何十発もの弾丸を連続発射できる）を利用することが多い。よって、モールやスーパーマーケット店内においても油断することなく、万が一銃声を聞いた場合には即座に床に伏せる、壁に隠れるなどして流れ弾にも十分注意する必要がある。

## 3. 邦人及び邦人以外の被害事案

### (1) 邦人被害事案

特になし。

### (2) 邦人以外の被害事案

● 4月5日、テグシガルパ市内を歩行中の弁護士男性が、オートバイ乗車の男に銃撃され死亡した。（モラサン通り沿い）

- 4月6日、ロアタン島において、寄港中のクルーズ船乗務員（フィリピン人）が自転車乗車の男に所持品を奪われた後、銃撃されて死亡した。
- 5月12日、テグシガルパ市内の金融機関において多額の現金を下ろした後、車両にて移動中であった男性が5人組の強盗に襲われ、現金を強取された。（スヤパ通り沿い）
- 5月26日、ラ・セイバ市内において、休暇中であった実業家男性がオートバイ乗車の男に銃撃されて死亡した。（ミラモンテス地区）
- 5月27日、サン・ペドロ・スーラ市内のスーパーマーケット店内において、アサルトライフルで武装した複数名の犯人に追跡され、店内に逃げ込んだ男性ほか、客である女子大生及び警備員の計3人が銃撃により死亡した。（大学通り付近）
- 6月14日、テグシガルパ市内において、市内路線バスに5人組の犯人が乗り込み、乗客から金品を強取した後、車内にガソリンを撒いて放火した。（ミラフローレス地区）
- 6月20日、エル・プログレソ市内の民家で飲食していた男女5名が銃撃を受け、全員死亡した。（ラ・ブリマベラ地区）

#### 4. テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

#### 5. 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人被害はなし。

#### 6. 日本企業の安全に対する諸問題

（1）ホンジュラスの対日感情は良好であり、日系企業をターゲットとしたテロの可能性は低いと考えられる。しかし、強盗等の一般犯罪は依然として高水準で発生していることから、それら犯罪に対する防犯対策の強化が必要である。

（2）コルテス県、フランシスコ・モラサン県、アトランティダ県及びヨロ県の都市部において多数の殺人事件が発生（殺人事件全体の約45%）していることから、特に該当地域において業務予定のある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分に治安情報を収集し、さらなる安全強化を図ることを勧める。（了）